

令和四年度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



令和4年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

○文芸部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
知事賞	中学生	羽ばたけ！！桂分校！！	散文	高岡市立国吉義務教育学校	8	山田 穂高	こころ草が咲いた！
	高校生	懐かしい日々	散文	富山中部高等学校	2	神谷 真之介	おおかみこどもの雨と雪

○文芸部門(散文・詩部門)

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
金賞	中学生	米騒動	詩	砺波市立庄西中学校	3	寺本 萌音	大コメ騒動
	高校生	進む道	散文	富山中部高等学校	2	高村 穂	おおかみこどもの雨と雪
銀賞	中学生	高峰譲吉の一生	散文	高岡市立高岡西部中学校	2	釜谷 光	講談社の絵本「高峰譲吉」
	高校生	鶴のいた庭を読んで	散文	高岡高等学校	2	三邊 彩音	鶴のいた庭:堀田 善衛
銅賞	中学生	登場人物の立場になって	散文	砺波市立出町中学校	3	河邊 泰雅	おおかみこどもの雨と雪
		フォースプレイス	詩	富山市立芝園中学校	2	寺 奏多	中央植物園の風景
	高校生	故郷挽歌を読んで	散文	富山商業等学校	2	中島 夏子	故郷挽歌:高島 高
		変わらない魅力をどう伝えるか	散文	高岡高等学校	2	片境 美桜	万葉集
佳作	中学生	私の宝物	詩	砺波市立庄西中学校	2	平木 結依子	竜とそばかすの姫
	高校生	君がいないとダメなんだ	詩	富山第一高等学校	1	中田 彩友美	のび太とドラえもん「ドラえもん」

○文芸部門(短歌・俳句部門)

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
金賞	中学生	大コメ騒動を見て	短歌	高岡市立高岡西部中学校	3	藤田 有	大コメ騒動
	高校生	雨と雪	短歌	富山高等学校	1	増田 陽太	おおかみこどもの雨と雪
銀賞	中学生	希望の波	短歌	富山市立芝園中学校	2	吉越 帆高	雨晴海岸
		おわら風の盆	短歌	富山市立呉羽中学校	2	山本 埜愛	月影ベイベ
	高校生	イノベーション	短歌	大門高等学校	1	桶川 空雅	ドラえもん
銅賞	中学生	じゃんこい	俳句	魚津市立西部中学校	2	湊谷 優花	夏の魚津
		約束	俳句	射水市立新湊南部中学校	2	川口 敦輝	人生の約束
	高校生	隔離期間	短歌	高岡南高等学校	2	堺谷 萌永	ドラえもん
		雨晴海岸	俳句	富山高等学校	1	村田 凜帆	万葉集
佳作	中学生	別れ	俳句	射水市立新湊南部中学校	2	野田 健瑠	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	夢	短歌	高岡南高等学校	2	川渕 帆乃風	ドラえもん

※ 文芸部門は、知事賞以外は「散文・詩」「短歌・俳句」の区分ごとに賞を設定

○美術部門

賞	題名	学校	学年	名前	題材	
知事賞	中学生	帰りたくなる場所	富山市立芝園中学校	3	吉田 理沙	人生の約束
	高校生	ただいま	富山中部高等学校	2	中山 亜美	路面電車の走る街 9・講談社
金賞	中学生	童女とかんざし	富山市立呉羽中学校	2	庄司 明日海	嫁入り童女の忘れもの
	高校生	家族の温かさ	富山中部高等学校	2	高村 穂	おおかみこどもの雨と雪
銀賞	中学生	大冒険	富山市立速星中学校	3	梅野 夕純	未来のミライ
		神通川花火大会	富山市立速星中学校	1	藤井 康輔	富山県を築いた人びと
	高校生	散居村	小杉高等学校	1	宮崎 結依	もみの家
		あの家へ	富山北部高等学校	1	山口 和夏	おおかみこどもの雨と雪
銅賞	中学生	越中おわら勇ましい男おどり	富山市立藤ノ木中学校	2	山本 桃子	富山の謎
		かがやく高岡大仏	富山市立速星中学校	1	今枝 慧社	高岡大仏
		八尾の灯	富山市立速星中学校	2	高林 美咲	燈火 風の盆
	高校生	漲る緑	富山中部高等学校	2	黒田 彩喜	目で見える滑川。新川・婦負の100年
		藤のある神社	富山中部高等学校	2	島 奈緒佳	万葉集
		夕焼けに圧倒された僕	富山中部高等学校	2	大原 知也	神通川むかし歩き
佳作	中学生	僕が見たものは	富山市立速星中学校	1	大林 実奈	八月二日、天まで焼けた
		波打つ富山湾	富山市立速星中学校	1	山市 悠太	富山湾を科学する
	高校生	ふふめり	富山西高等学校	2	山森 琉奈	わが背子が古き垣内の桜花 いまだふふめり一目見に来ね 大友家持
		夕刻	富山中部高等学校	2	大坪 愛佳	とやま電車王国

○写真部門

賞	題名	学校	学年	名前	題材	
知事賞	中学生	大丈夫、渡れる・・・	小矢部市立大谷中学校	1	河原 明彩	サクラクエスト
	高校生	小異の世界	富山南高等学校	1	村崎 元洋	牛首村
金賞	中学生	ドラえもん達が現実世界にやってきた	小矢部市立大谷中学校	1	岩永 岳琉	ドラえもん
	高校生	翔	富山東高等学校	2	氷見 優佳	私は白鳥
銀賞	中学生	大米騒動	小矢部市立大谷中学校	1	山口 優月	大コメ騒動
		あの日、あの時、見た景色	小矢部市立大谷中学校	3	西守 由依莉	万葉集
	高校生	時空	富山中部高等学校	1	今井 美優	富山の海釣り、地元のプロが教えるベストポイント
		絶佳	高岡第一高校	3	鳥山 快莉	春を背負って
銅賞	中学生	前向きに	小矢部市立大谷中学校	3	林 莉玖	笑うせえるすまん
		想いを繋げて	小矢部市立大谷中学校	3	高澤 伶綺	忍者ハットリくん
		名作の数々を産んだ地	小矢部市立大谷中学校	1	岩永 琉世	忍者ハットリくん、ドラえもん、笑うせえるすまん
	高校生	いただきまーす！	富山中部高等学校	2	中陣 凜子	雪道
		差し込む輝き	富山東高等学校	1	栗山 未遥	おおかみこどもの雨と雪
海が呼んでいる	富山東高等学校	1	小俣 結梨	ジョゼと虎と魚たち		
佳作	中学生	森の中のブランコ	富山市立大泉中学校	3	保田 梨華	おおかみこどもの雨と雪
		日本のベニス川の情景	高岡市立牧野中学校	1	中山 愛唯	君の臍臓をたべたい
	高校生	クールオレンジ	富山東高等学校	1	横山 将太郎	おおかみこどもの雨と雪
		哀歎	富山南高等学校	1	稲岡 信乃	納棺夫日記

知事賞（中学生の部）

題材『こころ草が咲いた！』

羽ばたけ!! 桂分校!!

高岡市立国吉義務教育学校 八年 山田 穂高

「へき地にこそ教育再生への道が残されている。へき地は人の心を育む宝の山である。」これは「こころ草が咲いた！」の「湖底に生きる五箇山桂分校」の中に出てくる言葉だ。この言葉は、人が少なく、都市とは無縁の生活をする場所でも、誰も孤独な思いをせず、支え合い、心温め合って生きることができると教えてくれる。

この話は、上平村立西赤尾小学校桂分校へ赴任した寺崎満雄先生と生徒の春実と幸太郎が共に過ごし成長していく姿、卒業する二人の生徒への悲しみと期待、三人が過ごした桂分校が廃校になり落胆する気持ちが丁寧に表現されている。そのなかでも、私が特に印象に残ったのは二つある。一つ目は、寺崎先生が大人になった教え子の幸太郎と再会する場面だ。ある秋の日、寺崎先生は境川ダムの完成にもなつて水の底に眠ることになった桂分校を訪れた。その時、寺崎先生はスーツ姿の幸太郎と再会した。そして、共に感じ育んだ結びつきを記憶に深く焼きつけるように、二人はどこまでも歩いた。幸太郎は温かい眼差しで見守り続けてくれた寺崎先生に感謝を込めて「先生ありがとう。」

とポツンと言った。私は素直に「ありがとう」を言える幸太郎の「優しさ」と「温かさ」に圧倒され胸がつまりそうだった。また、幸太郎のとても広い心に憧れと尊敬の念を抱いた。おそらく、今の私には幸太郎のように「ありがとう」と優しく言うことはできないだろう。この幸太郎の言葉を聞いて寺崎先生は「わしこそ、わしこそ、ありがとうや。」

と言った。どれだけ寺崎先生はうれしかったのだろうか。まさに「感恩戴徳」という言葉がぴったりな二人だと思う。この寺崎先生と幸太郎の関係は先生と生徒が互いに「心を開いて」生活していくことによることができるのだろう。他にも、桂という厳しい自然環境で共に時を過ごしたからこそ歳月を超えて通じ合うものができ、この誰もが憧れる

恩師との太い絆ができたのではないかと思う。

二つ目は、桂という地域で血のにじむような厳しさを乗り越えるため、村人が囲炉裏を囲む子供達にこう教えた場面だ。

「感謝の心を忘れるな。」

「勤勉、実直であれ。」

「努力を惜しむな。」

僕は、この言葉を聞いて、はっとした。最近少し手を抜いてしまっている時があったからだ。しかし、この言葉を聞き初心に戻ることができた。これから、色々な壁にぶつかると思うが「感謝」「勤勉」「努力」を肝に命じ全力で乗り越えていきたい。

私の学校には、この話の舞台である桂分校と同じ所が二つある。一つ目は、雄大な自然に囲まれていて生徒数が少ない所だ。そのため、自然の美しさにひたることのできる楽しさと厳しさがある。この調和のとれた環境をいかして、幸太郎のように誠実で豊かな心を育みたいと思う。

二つ目は、もとの学校が廃校になった所だ。私は、廃校になった母校が記憶の中から無くなりかけていた。だが幸太郎から、実際に母校が無くなって自分の中から母校での思い出を消さないことが、母校のためにも大切と学び、もう一度母校について考えるようになった。これから、私は大人になっていくが母校を愛し、ふるさとの大地に満開の花を咲かせたい。

このように、私の学校も桂分校と状況は変わらない。けれども「小規模学校だからできない」ではなく、幸太郎のように自分の学校に誇りを持ち、小規模だからこそできることをいかしてさまざまなことに挑戦したい。そして、何事も一生懸命にやり、桂の子供達のように誰からも愛される人間になると、ここに誓う。

知事賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

懐かしい日々

富山中部高等学校 二年 神谷 真之介

滑川市立田中小学校は映画「おおかみこどもの雨と雪」の学校シーンの舞台となった学校であり、僕の母校である。

「二学期から新校舎になります」

校長先生が、一学期の始業式で言った。

僕が小学校三年生のとき、旧校舎の大部分は老朽化のため取り壊されることになった。来賓用玄関や、中央階段、校長室など、旧校舎の一部は地域の強い要望もあり保存されることになったが、走り回って叱られた長い廊下や、毎日のように通い詰めた図書室は、全て取り壊しが決まった。富山県内で最後の木造校舎だった。けれども、僕は悲しく無かった。そのときの僕は新校舎への期待で頭がいっぱいだった。

小学六年生になり、卒業のカウントダウンが始まったころ、僕たちは今までお世話になった校舎を掃除することになった。それは、新校舎だけではなく、保存された旧校舎も対象になっていた。三年ぶりに旧校舎に足を踏み入れると、真っ先に木の匂いがした。新築住宅のホームセンターのような匂いとは全く性質の異なる、密度の高い、八十年近い歴史によって熟成された匂い。風が吹くと音を立てて揺れる窓手すりやツルツルになった階段、歩くたびにきしむ廊下など、三年間の間に変わり果てた僕たちとは対照的に、木造校舎はかつての伝統に支えられたぬくもりを、褪せることなく持ち続けていた。

懐かしい思い出に浸った後、掃除が始まった。僕の掃除場所は、保健室だった。保健室と言っても、椅子一つない空っぽの教室だ。床の木目目に沿って雑巾をかけていく。雑巾をかけるごとに、木の匂いがする。最後にほうきでゴミを集めたものの、ほこりさえほとんどなかった。丹念に掃除された、もう使用されることのない空き教室を見て、僕は初めて寂しくなった。もう、この木の匂いを感じられること

は無いことを知ったからだ。同時に、この校舎で過ごした時間がかけがえのないものだったことに気がついた。

小学校を卒業して一年ほどたった頃、おおかみこどもの映画を観る機会があった。母校がモデルになっていたことは知っていたが、ストーリーは詳しく無かったので、一度見てみたいと思った。

この映画では、冒頭のシーンで狼の父が亡くなり、母と、幼い兄弟雨と雪で田舎に移り住むことになる。やがて月日が流れ、幼かった雨と雪が小学校に通い始める。そこで、オオカミと人間の子供である雨と雪は、人間の社会を知り、ときに戸惑い、傷つけながら、自分の生き方を選択してゆく。

僕はこの映画を観て、校舎の再現度の高さに驚かされた。階段の手すりの装飾や、ゆがんだ窓、使い込んだ廊下の木の色など、全て僕が過ごした場所のままだった。また、木造校舎の温かさや、愛にあふれた物語が見事に調和していて、胸を打たれたし、何より勇気づけられた。

僕は今、高校に通っている。高校に行く途中の電車の窓から、僕の母校、田中小学校が見える。グラウンドを挟んで左に新校舎、右に旧校舎がある。今また小学校の旧校舎、あるいは新校舎の中に入ったらどんな感情を抱くだろうか、ということを考える。「おおかみこどもの雨と雪」では、雨も雪も最後は母から旅立ってゆくが、現実も同じように出会いと別れの連続だと思う。けれども、僕たちは今が当たり前すぎて、いつか別れが訪れることを忘れてしまう。だからこそ、後悔のないように今を精一杯生きたい。この物語はそんな大事なことを、僕に教えてくれた。

【散文・詩部門】

金賞（中学生の部）

題材『大コメ騒動』

米騒動

砺波市立庄西中学校 三年 寺本 萌音

米、米、米

米が不作で値上がって

私ら生活難で不安やちゃ

地主やら米商人やら売り惜しみ

偉い様は輸入もしてくれんが

なんゆうとんがいね

そんなら私ら、生きていけんねか

なんとかせんなんちゃ

そんで私ら集まって力合わせて

なんとかしてくれと偉い様に言うたが

なあんも聞いてあたらんだから

私らそこで大騒ぎして打ちこわしたはやちゃ

越中の主婦は強いがいちゃ

金賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

進む道

富山中部高等学校 二年 高村 穂

「雪斗はさ、退院したら何するの？」

「ざあざあ、という雨音が響く病室で隣のベッドの雨貴はそう僕に声を掛けてきた。窓からは厚い灰色の雲が顔を覗かせているが、それとは対照的に雨貴のパツチリと開かれた目は輝いている。」

「そうだなあ。入院中にお見舞いに来てくれた子にお礼して……。あとは、ほら受験勉強しないと」

「来年は俺ら、高校受験だもんな！ 高校ってどんな感じなんだろう。楽しみだ」

雨貴は点滴の繋がった手を大きく上に挙げてはしゃいでいた。しかし、その声にヒューヒューという音が混じり始め、遂には大きく咳き込んでしまった。僕は急いで彼のベッド脇に駆け寄り、背中をさすった。

「喘息って雨の日は症状が強くなるって、この前言われたじゃん」

「ケホッ、ケホッ、ごめん。ちょっと、はしゃぎ過ぎた」

そう言いながらも彼には悪びれる様子は全くなく、むしろ少しニヤッているようにも思えた。彼のこの能天気さには呆れてしまうが、時には僕の気持ちを明るくしてくれるのだった。

「よし、大分落ち着いたからもう一つ雪斗に質問だ」

「今度は何？ あんまりはしゃぎ過ぎないでよ」

大丈夫、大丈夫と首を縦に大きく振って雨貴はこう僕に質問した。幼稚園の時、ちょうど今日みたいな雨の日に喘息の発作を起こしたことがあった。上手く息が吸えなくてもがく僕に、幼稚園の先生は必死に声を掛けてくれた。仕事で忙しいお母さんもお父さんも、すぐに僕

の元に来てくれた。あんな大人になりたい。優しく、誰からも頼りにされる大人になりたい。そして、今まで僕に優しくしてくれた人に恩返しをしたい。

「優しい人になってさ、今までお世話になった人に恩返ししたいな。助けたり、支えたりして」

そうは言ってみたものの、なんだか照れくさくなって僕は雨貴から視線をずらすように下の方を向いた。そして、「雨貴は？」と質問を返した。

「照れんなよ、かっこいい目標じゃん。まあ、そうだな……俺は、一人で生きてみたい。誰とも関わらないって意味じゃなくてさ、自分のことは自分でできて、自分で責任をしっかりと負える人になりたい。そして、今までお世話になった病院の先生とか親とかに立派になった自分の姿を見せたい」

そう言い終えた、雨貴は僕に向けていた視線を窓の外に逸らした。僕も黙って窓の方を見た。先程まで降っていた激しい雨はぱったりおさまり、雲からは光が差し込んでいた。雨に濡れた地面や屋根が光を反射してキラキラと僕らの目に映る。

「空もさ、僕たちを応援してくれてるみたいだね」
「本当だな」

雨貴と僕は顔を見合わせて笑った。

僕と雨貴では受験する高校も、その先の進む道も全然違う。どちらの道にも、色々な困難があって、時には大きな壁にぶつかってくじけることもあると思う。でも、今日みたいな日が、雨貴くんとの思い出が、誰かに助けてもらった日々がきつと背中を押してくれる。そう信じて、胸を張って生きていこうと思う。

銀賞（中学生の部）

題材『講談社の絵本「高峰譲吉」』

高峰譲吉の一生

高岡市立高岡西部中学校 二年 釜谷 光

熱心に追い求めているもの。それを一生懸命追及すれば自分にとって、人間にとって、世界にとって最高のものを生み出す。

そんなことを高峰譲吉の一生から学んだ。高峰譲吉といえば富山県出身でタカ・ジアスターゼの発見者として世界的に有名な科学者だ。人造肥料の製造、アドレナリンの発見など様々な方面で活躍した。この他にも様々な発明・発見をしたが、日米親善にも尽くしたことを忘れてはならない。アメリカの人と会うときは、着物を着て、日本文化を会話の中で紹介していたという。

僕はその時代から百年以上経た今でも同じことが起きていると思う。例えば外国人観光客を呼び込む場合だ。多くの地域が様々な方法で日本文化を発信し、体験活動などを提供することで地域の活性化を目指している。他にも過疎地域が若者を呼び込む取り組みにも当てはまる。今、日本とアメリカが良好な関係にあるのもこの譲吉の外交のおかげかもしれない。

譲吉の父は医者で製薬技術を発明した。幼い譲吉は、そんな父に憧れていつか父のようになることを固く決心する。そして譲吉は、その夢を叶えるために毎日、夜遅くまで勉強に励み、十二歳の頃には外国の学問を学ぶために長崎に行く。ポルトガル人の屋敷に預けられた譲吉は、外国の学問を学びながら屋敷に訪れた日本人の通訳もしていたという。

僕はこの後の譲吉の活躍は、幼い頃の父への憧れが大きいと思う。僕にも憧れの人がある。辛いときもその人のことを思い出すと頑張ろうと思える。何となく譲吉の心情が想像できる。また譲吉は子どもの頃から長崎に行くという貴重な経験をしている。その経験こそが大人になってからも役立っていると思う。僕も貴重な経験を大切にしていきたい。

科学者になるため大学に入学し研究を行っていた讓吉は陸軍から氣球を作ってくれと依頼が来る。その依頼を受けた讓吉は苦心に苦心を重ね、作り上げ、日本で初めて氣球を打ち上げたのだ。

このエピソードを聞いて、僕は、讓吉は何事にも熱心な人だと思づくと思った。科学者という夢とは関係ないように見えるが進んで挑戦し、成し遂げる姿に感動した。

社会人になった讓吉は、アメリカでおいしい酒の作り方について研究していた。この頃あまりに熱心に働いていた讓吉は重病にかかってしまう。しかし、その病気を完治させて退院した後は以前のように一日中研究を行った。そうしてタカ・ジスターゼという薬を發明したのだ。この薬は食べた物がよくこなれる薬で多くのアメリカの学者が感心した。

僕は重い病気を治した後も以前と同じように昼も夜も研究し、しかも、素晴らしい薬を發明したことにとても驚いた。身の回りの發明品はこのような大変な苦勞があつてこそ今、普通に生活できていると思うと感謝の氣持ちが溢れてくる。

その後も讓吉はグリセリン、アドレナリンなど多くの研究を行った。一方で、日米親善にも尽くし、多くのアメリカ人が日本に好印象を抱いた。また、ニューヨークという都市に日本から取り入れた桜の苗木を植えた。現在でも多くの人が花見に来ているそうだ。高峰讓吉という素晴らしい科学者が亡くなった後もアメリカにある讓吉の墓には、多くのアメリカ人が訪れ、讓吉の功績が今もなお、受け継がれている。

この機会にあたって高峰讓吉について調べると科学者としてだけでなく多彩な方面で活躍した偉人であることが分かった。病氣にかかっても研究を続けたという話が特に印象に残った。そういう素晴らしい方がこの富山、高岡出身であることに誇りを持って、その生き方を参考にしていきたい。僕は、高峰讓吉に憧れ、彼のようになることを固く決心した。どんなことも熱心に懸命に諦めず追及し続けることを固く決心した。

銀賞（高校生の部）

題材『鶴のいた庭』堀田 善衛

鶴のいた庭を」読んで

高岡高等学校 二年 三邊 彩音

「鶴のいた庭」は江戸から明治に栄えた廻船問屋の一つである「山へ鶴屋」に生まれ、その家の没落を経験した作者、堀田善衛の幼少期を描いた小説だ。

この小説が伝えるのはやはり、万物流転の摂理だろう。少し前まで賑やかだった港町は時代の急激な変化によって静かな地に一変した。貿易の一線を退いた作品の祖父は、人のいない問屋で鶴を見つめて過ごす。毎日、シベリアへ移動する渡り鳥が羽を休めに立ち寄る問屋の庭には、二羽の鶴がいた。羽を切られ、広い庭を世話係の老人と歩く二羽の鶴だ。作者の祖父は、移りゆくものに取り残される同じ境遇を鶴と分かち合っていたのだろう。庭を眺め、ほっ、ほっ、ほっ、と笑い声を発しながら、涙を流す彼の様子からは、取り残され続ける覚悟と、そして諦めを感じずにはいられない。

一方で、幼少の作者は、空に現れては消える飛行機をみて、「どこへ行くのだろう」とつぶやく。作者と、作者の祖父とは、諦めと好奇心という、いかにも生きた年数によって現れたような隔たりがあると思つた。

おいて行かれる者の氣持ちにふれて、私は私の祖父のことが氣になった。祖父は五年前に退職し今は共に暮らしている。一年ほど前に、祖父がスマートフォンに換えたいと言ったことがあった。私たちの家族は、スマホは色んなサイトに繋がるから危険だし、おじいちゃんには必要ないよ、と説得し結局祖父はガラパゴス携帯を使い続けている。意地悪な氣持ち、あるいは経済的な理由から説得したわけではない。私はただ、本当に危険だし必要ないと思つて言つたのだ。

鶴のいた庭を読んでからは、私は自分の当時の振る舞いが、祖父を時代の変化から暴力的に引き離そうとしてしまつていたのではないかと不安になった。

考えてみると、現代を生きる私たちは、時の流れなるものに執着しすぎている。インターネットを開けば「流行」という文字が瞬間的に生まれ続けデジタルに残り、さらには「新しい」流行の競争を生み出す。祖父のスマートフォンの使用を否定した私は、無自覚に変化の生き残りに勝利しようとしていたのかもしれない。

私は、反省と後悔でしばらく祖父のことが頭から離れなかった。ふと祖父の部屋に目を向けると、いつも漏れ出ているテレビの大きな音が入り込んで、祖父が掛けかけているのだと知った。私は祖父の部屋に入って見た。この部屋に入るのはいつか何年ぶりだろう。

部屋は、ぬり薬の匂いと先程までついていたであろう冷房で冷えた空気の残りがまざっていた。祖父が一人で過ごす畳の部屋。私はテレビの隣に水そうが置いてあることに気がついた。のぞきこむと、中くらいで、赤と黒と白のまだら模様の金魚が二匹泳いでいた。たちまち祖父が一人で金魚を見つめている姿が思い浮かんで、静かに鶴を見る作者の祖父の姿とますます重なって見える。私は、悲しいが、どこか腑に落ちるような、そんな気持ちだった。

しかし私は、祖父には作者の祖父のように時の流れを悲観し、取り残されることへの諦めを感じながら死んでほしくはない。

そもそも、私と祖父との隔たりは、年齢による好奇心と諦めの違いなどではなく、競争の勝敗だった。生まれた時代は違っても、今を生きる私たちはみな、時の流れと共にいる「現代人」だ。私は、その中で時の流れと変化に競争を生み出すのではなく、それを分かち合い、共に楽しむ人でありたい。

祖父が帰ってきたら、かわいい金魚やね、と伝えてみようか。

銅賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

登場人物の立場になつて

砺波市立出町中学校 三年 河邊 泰雅

「おおかみこどもの雨と雪」という作品を見たことがあるか。これは、富山県出身のアニメ監督細田守さんによって作られた作品である。

この作品は、今年で公開十周年を迎えた。それに伴い、上市町を中心に県内各地で様々なイベントが行われている。私は、その内の一つである細田守監督と女優室井滋さんの対談とその後の上映会を拝見した。対談で語られた監督の作品への思いなどを踏まえて、もう一度作品を見ると今まで気付かなかった魅力やメッセージに気付くことができ、再びこの映画の良さに触れることができた。

この作品のキーワードは「立場になつて」だと思う。この作品はその登場人物の「立場になつて」、「感情移入してこそだ」と思うし、それをリードする工夫が作中に散りばめられていると私は思う。

細田監督らには対談で「ギャップ」について話題に上げていた。この「ギャップ」が感情移入をリードする工夫の一つだと思う。作中の「ギャップ」とは何か。いくつかシーンを紹介したいと思う。

この作品は、のちにおおかみこどもの母親となる「花」が大学に通っているところから物語が展開される。この大学は、東京のはずれにあるそうで、物語序盤では都会の情景がよく描かれる。そして、この煌びやかな都会と対照的に野性味の強い「おおかみおとこ」が描かれ、「野性」と「人工」という面でのギャップを作り出している。このギャップは、都会にただ一人ぼっちだったおおかみおとこの孤独さを表現している。しかし、それと同時におおかみにまでも寄り添っていくという「花」の寛大な心ややさしさを感ずることもできる。今まで本当の自分を見せられなかった「おおかみおとこ」の立場になつて考えてみると、それは今までにない優しさが心に刻まれ、とてつもなくうれしかったと思う。

そして、場面は田舎へと移る。そこで、やはり注目してほしいのが、「葦崎のおじいちゃん」のギャップである。この作品には、情景の中

での何気ないギャップはもちろん、キャラクター一人にとってもそれが見られる。その中でも、「葦崎のおじいちゃん」は、大きな見どころである。田舎に引っ越してきた「花」たちに最初は厳しい態度だったものの、「花」や家族の努力を見ていくうちに農業などで手を貸してくれるようになった。これが葦崎のおじいちゃんである。性格は、ぶっきらぼうなもの、見捨てることはなく、手を貸してくれる。この「態度」と「行動」の「ギャップ」がすごく心に響いてくる。他にも説明しきれないほどたくさんの「ギャップ」がある。これらは、感情移入のリードとして働く一方で「つながりを大切にし、時には支えられ、時には助ける。」というあたたかい人間らしさを「花」や「葦崎のおじいちゃん」から再発見し、実際に自分たちの身で感じてほしいというメッセージを秘めていると思う。

「おおかみこどもの雨と雪は、富山の美しい自然を描いている。」
「土地の価値を感じて、その贅沢さを実感してほしい。」

細田監督は対談でそうおっしゃった。なんでもかんでも便利になれば良いという考えから脱却し、そこならではの良さや魅力を大切にしたいというメッセージである。この作品の自然を通して伝えたいかった大きなメッセージの一つだと思う。この話を聞いて私は、この富山の美しい自然のために何ができるか改めて考えていきたいと思った。この作品の魅力は、まだまだある。やはり、一人一人が作品に触れて、込められた思いを自分なりに感じてほしいと私は思う。

銅賞（中学生の部）

題材『中央植物園の風景』

フォースプレイス

富山市立芝園中学校 二年 寺 奏多

ここは僕の「第四の場所」、
静けさの中におかえ入れてくれる空間、
気持ちのよい時が過ぎる

日の光を浴びて輝いている植物たち
風が吹く度にきらきらと

水面が輝いている

しせいを正しくひと休みする赤とんぼ
「ねえ、トンボさん、どこから来たの、
そしてどこへ行くの」

「ねえ、待って。僕も連れて行ってよ」

自由にいろいろな世界を見てみたい
トンボさんは知らんぷりをして

飛んでいってしまった

僕の気持ちも知らずに

僕の気持ちは波がサーと

引いた後ようだった

僕はまた水面を見ながら、時が過ぎる

銅賞（高校生の部）

題材『故郷挽歌・高島 高』

故郷挽歌を読んで

富山商業高等学校 二年 中島 夏子

私は、立山には、おおらかで全ての人を包み込んでくれるような雄大なイメージを持っている。よく見るのは夏の立山の堂々としながらも爽やかな姿だ。

しかし、作者が詠んだのは冬の冷たい立山の情景である。「重たい空気」と「低くて暗い雲」「立山連峰の雪のせい」と言うのは、冬の寒くて暗い富山の気候だけでなく、作者が、上野からの列車で故郷の富山に降り立った時の心情だと思う。故郷へ帰るのは、なんとなく乗り気ではなかったのか、足取りが重い気持ち富山の冬に例えたのかもしれない。

「幼なじみがいるようだけれど、帽子を深くかぶり僕はなるべく知らないふりをしたい」と言っていることから、作者は人との関わりを持つことが苦手で、さらに故郷には良い思い出がないのかもしれない。

「町の中は今もやっぱり魚屋さんやお菓子屋さんや銀行や荒物やさんでにぎわっているだろうけど」と作者の眼に映った風景は、昔からほとんど変わらないでいる故郷を蔑んだのか、とも思ったが、もしかしたら目まぐるしく日常が変化する、自分の住む都会との比較から得た安心感からなのかもしれない。

当て所なくさまよい歩く故郷の冷たい雪道は、都会の生活に行き詰まった作者の心を、きつと温めてくれることだろう。

銅賞（高校生の部）

題材『万葉集』

変わらない魅力をどう伝えるか

高岡高等学校 二年 片境 美桜

私が初めて雨晴海岸に行ったのは、高校の課外活動のときである。課外活動の目的は、万葉集の舞台となった場所に実際に訪れ、大伴家持が詠んだ歌の感情を感じ、学ぶことである。みんなで計画を立てている中、私は楽しみながら気持ちと気乗りしない気持ちの交差していた。きれいな場所に行って体験できることが楽しみではあるのだが、私の、遠出するのは面倒くさい、というインドアな気質がどうにも邪魔をする。それに今まで一度も行ったことのない場所へ行くというのは、不安を感じずにはいられなかった。

私のそんなマイナスな気分は電車に乗ってすぐに吹き飛んだ。急に現れた、電車の窓から広がる海に思わず声をあげた。自然と頬が上がり、心が浮き立つ。そこから歩いて、海岸へ向かう私の足はぐんと軽くなっていったような気がした。実際に友達とわくわくしながら歩く時間はとても早く感じたし、体が疲れを訴えることもなかった。ついに雨晴海岸に着いた時も電車で見たときと同様、感動して心がしびれるような気がした。あらかじめ写真で見えてはいたが、実際に見るのはこんなに違うのかと驚いた。それくらい私が見た雨晴海岸はきれいだった。

万葉集を編纂した大伴家持も雨晴海岸を絶賛したという。家持はその生涯のなかで、日本中をあちこち移動していた。それもかなりの回数である。その経歴をみて私は、家持はいやになることがなかったのだからかと考える。奈良時代の人々の考え方を知っているわけではないが、私有家持の立場だったら絶対にいやになる。同じ県内の移動も億劫に感じてしまうほどのだから。家持もいやになったとき、もしかしたら自然に元気づけられたのかもしれない、そんなことを考えた。少なくとも、富山の自然が大伴家持を感動させ、たくさんの歌を生み出したことはたしかである。私があの時目にした自然は他のど

ここを探しても見つかることはない。富山の自然の美しさは時代を問うことなく、人々の心を癒し、震わせる。私はこのとき、もっとも力強く感じ、学んだのはこのことかもしれない。楽しい思い出とともに、大伴家持のことについて考える機会、それと富山の自然の力を自分のなかで感じる事ができ、とても良い経験になったと心から思う。

これから過ごして、さまざまな場所へ行く中で富山の自然の美しさをずっと心に留めておきたい。そしてその魅力がずっと続いてほしい。そのためには私たちが行動していかねばならない。私自身も一人でも多くの人々に訪れて富山の自然を感じてみてほしいと思う。これから私たちは富山の自然をどのように語り伝えることができるだろうか。大伴家持は歌という文学の形にしてこの令和の時代まで語り伝えた。まず今、私たちが持っている、富山の魅力が多く記されている万葉集のことをもっと知っていきたいと思う。私はまだ、万葉集に対して基本知識しか分らない。大伴家持のこともここに書いたのはほとんど私が予想して考えたことである。このままで伝えていくにはたりないだろう。よりたくさんの知識をつけて、よりたくさんの方の魅力を伝えていきたい、そして多くの人に知ってもらいたい。貴重な経験ができた課外活動の思い出、そのなかで感じたことを思い返しながら、そんなことを考えた。

佳作（中学生の部）

題材『竜とそばかすの姫』

私の宝物

砺波市立庄西中学校 二年 平木 結依子

歌っているのは
私じゃない
けれども私でもある
もう一人の私

きっと私は
仮面を被って
生きている

「歌って」

わかっている
そんなこと
いつまでも引きずっていること
わかっているのに

佳作（高校生の部）

題材『のび太とドラえもん「ドラえもん」』

君がいないとダメなんだ

富山第一高等学校 一年 中田 彩友美

僕はダメダメ
グズでのろまで泣き虫な僕
いつも落ち込んでばかり
僕は何も変わらない
だから君に道具を借りる

君が未来にもどる日が来た
こんなときも泣いてばかり
ああ 僕はダメダメ

君がいなくなってから十年経った
僕は努力した
君がいなくても 生きていけるように

目を見開く
青くて丸い君がいた
ほおにあなたたかいもの
あの頃と変わららない
僕は泣き虫のまんまだ
うれしい気持ちでいっぱい
だから君に抱き着いた
ああ やっぱ僕は

【短歌・俳句部門】

金賞（中学生の部）

題材『大コメ騒動』

大コメ騒動を見て

高岡市立高岡西部中学校 三年 藤田 有

子供らに
おなかいっぱい
食べさせたい
母の思いは
いつの時代も

金賞（高校生の部）

題材『おおかみとこどもの雨と雪』

雨と雪

富山高等学校 一年 増田 陽太

我が子へと
「しっかり生きて」
光る朝
花の覚悟と
雨の旅立ち

銀賞（中学生の部）

題材『雨晴海岸』

希望の波

富山市立芝園中学校 二年 吉越 帆高

コロナ禍の

ゆううつ晴らせ

雨晴

波の向こうに

希望が見える

銀賞（中学生の部）

題材『月影ペイペ』

おわら風の盆

富山市立呉羽中学校 二年 山本 埜愛

笠からのぞく

三年分の秘めた想い

汗とともに

涙ながれる

銀賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

イノベーシヨン

大門高等学校 一年 桶川 空雅

果てしない

未来の話と

思いきや

技術の進歩で

導く四次元

銅賞（中学生の部）

題材『夏の魚津』

じやんとこい

魚津市立西部中学校 二年 湊谷 優花

夏の夜

コロナに負けず

じやんとこい

銅賞（中学生の部）

題材『人生の約束』

約束

射水市立新湊南部中学校 二年 川口 敦輝

「また来るよ」

約束つなげる

曳山祭

銅賞（高校生の部）

題材『万葉集』

雨晴海岸

富山高等学校 一年 村田 凜帆

家持に

詠まれし波に

耳澄ます

銅賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

隔離期間

高岡南高等学校 二年 塚谷 萌永

隔離期間

部屋で一人で過ごす日々

どこでもドアで

君のところへ

佳作（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

別れ

射水市立新湊南部中学校 二年 野田 健瑠

夏山や

近づく別れ

雨と雪

佳作（高校生の部）

題材『ドラえもん』

夢

高岡南高等学校 二年 川渕 帆乃風

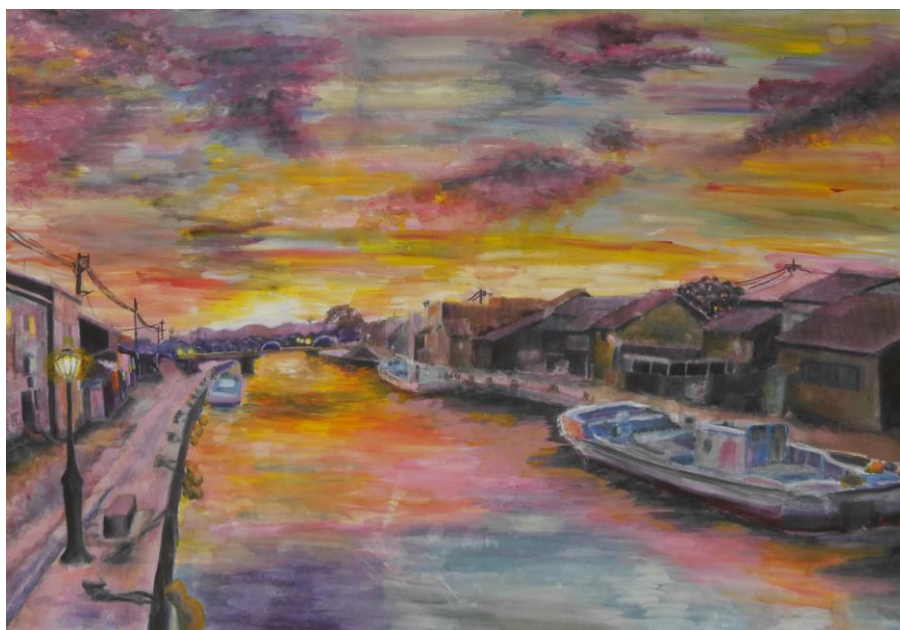
青い猫

いないと知りつつ

思い描く

ピンクのドアで

はばたける日を



知事賞(中学生の部)

「帰りたくなる場所」〈題材「人生の約束」〉

富山市立芝園中学校3年 吉田 理沙



知事賞(高校生の部)

「ただいま」〈題材「路面電車の走る街 9・講談社」〉

富山中部高等学校2年 中山 亜美



金賞(中学生の部)

「竜女とかんざし」〈題材「嫁入り竜女の忘れもの」〉

富山市立呉羽中学校2年 庄司 明日海



金賞(高校生の部)

「家族の温かさ」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山中部高等学校2年 高村 穂



銀賞(中学生の部)

「大冒険」〈題材「未来のミライ」〉

富山市立速星中学校3年 梅野 夕純



銀賞(中学生の部)

「神通川花火大会」〈題材「富山県を築いた人びと」〉

富山市立速星中学校1年 藤井 康輔



銀賞(高校生の部)

「散居村」〈題材「もみの家」〉

小杉高等学校1年 宮崎 結依



銀賞(高校生の部)

「あの家へ」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山北部高等学校1年 山口 和夏



銅賞(中学生の部)

「越中おわら勇ましい男おどり」〈題材「富山の謎」〉

富山市立藤ノ木中学校2年 山本 桃子



銅賞(中学生の部)

「かがやく高岡大仏」〈題材「高岡大仏」〉

富山市立速星中学校1年 今枝 慧杜



銅賞(中学生の部)

「八尾の灯」〈題材「燈火 風の盆」〉

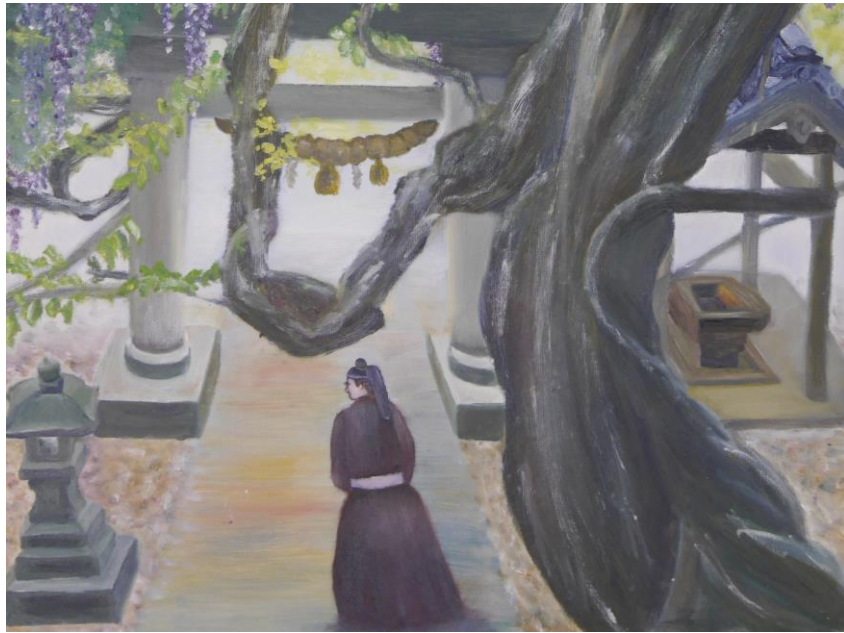
富山市立速星中学校2年 高林 美咲



銅賞(高校生の部)

「漲る緑」〈題材「目で見える滑川。新川・婦負の100年」〉

富山中部高等学校2年 黒田 彩喜



銅賞(高校生の部)

「藤のある神社」〈題材「万葉集」〉

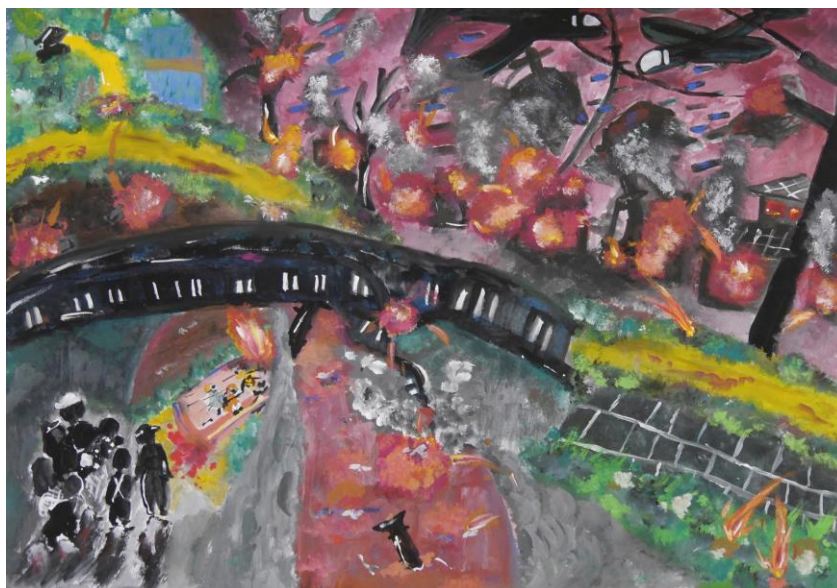
富山中部高等学校2年 島 奈緒佳



銅賞(高校生の部)

「夕焼けに圧倒された僕」〈題材「神通川むかし歩き」〉

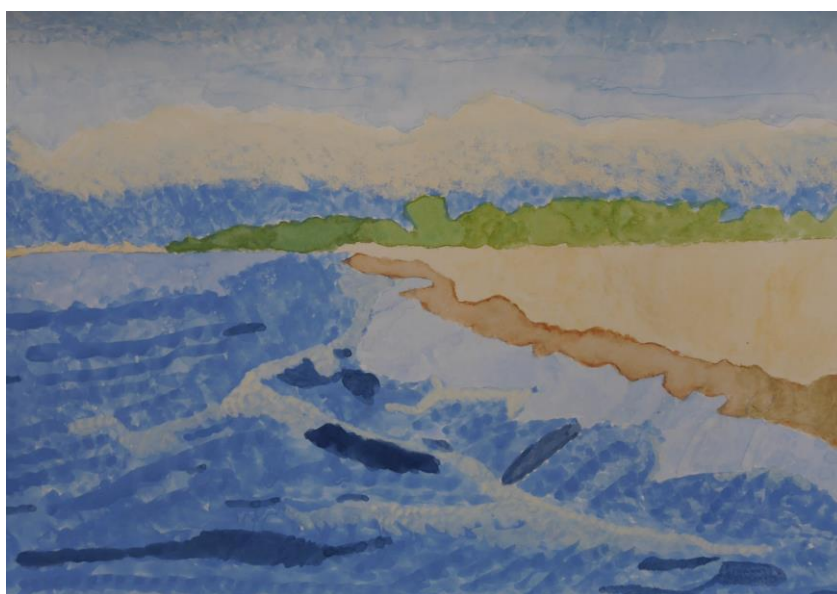
富山中部高等学校2年 大原 知也



佳作(中学生の部)

「僕が見たものは」〈題材「八月二日、天まで焼けた」〉

富山市立速星中学校1年 大林 実奈



佳作(中学生の部)

「波打つ富山湾」〈題材「富山湾を科学する」〉

富山市立速星中学校1年 山市 悠太



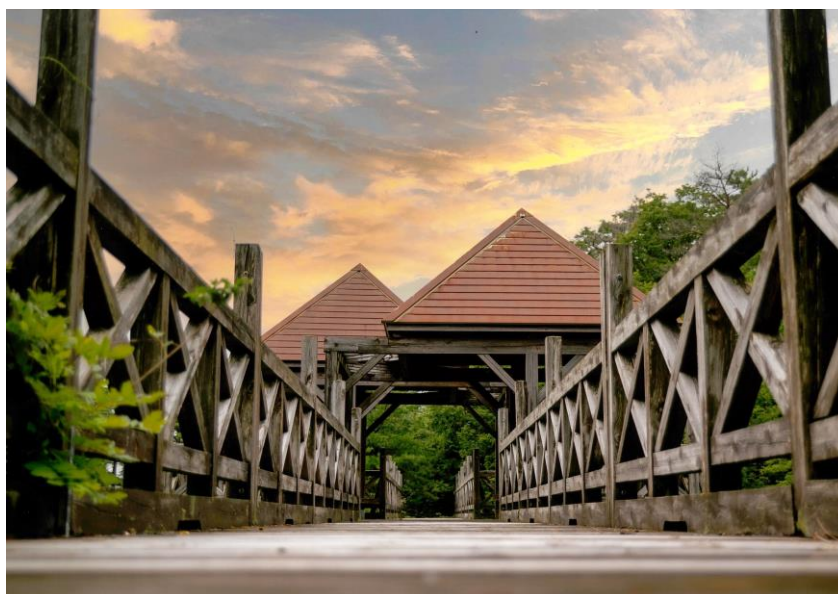
佳作(高校生の部)

「ふふめり」〈題材「わが背子が古き垣内の桜花いまだふふめり一目見に来ね 大友家持」〉
富山西高等学校2年 山森 琉奈



佳作(高校生の部)

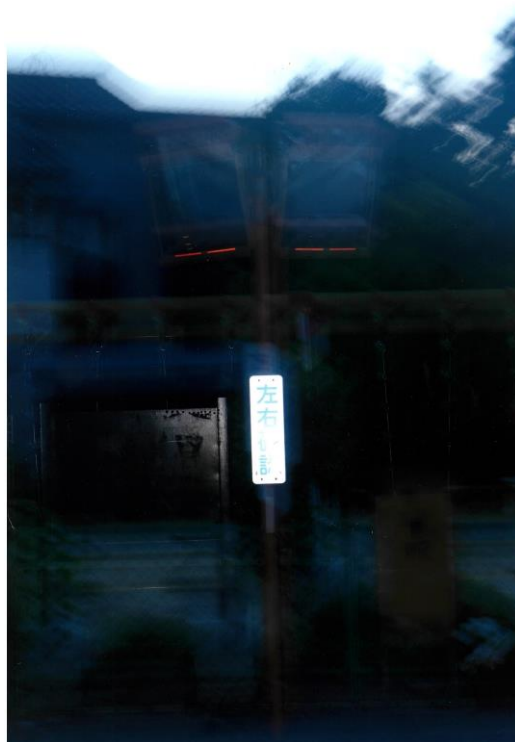
「夕刻」〈題材「とやま電車王国」〉
富山中部高等学校2年 大坪 愛佳



知事賞(中学生の部)

「大丈夫、渡れる・・・」〈題材「サクラクエスト」〉

小矢部市立大谷中学校1年 河原 明彩



知事賞(高校生の部)

「小異の世界」〈題材「牛首村」〉

富山南高等学校1年 村崎 元洋



金賞(中学生の部)

「ドラえもん達が現実世界にやってきた」〈題材「ドラえもん」〉

小矢部市立大谷中学校1年 岩永 岳琉



金賞(高校生の部)

「翔」〈題材「私は白鳥」〉

富山東高等学校2年 氷見 優佳



銀賞(中学生の部)

「大米騒動」〈題材「大コメ騒動」〉

小矢部市立大谷中学校1年 山口 優月



銀賞(中学生の部)

「あの日、あの時、見た景色」〈題材「万葉集」〉

小矢部市立大谷中学校3年 西守 由依莉



銀賞(高校生の部)

「時空」〈題材「富山の海釣り、地元のプロが教えるベストポイント」〉

富山中部高等学校1年 今井 美優



銀賞(高校生の部)

「絶佳」〈題材「春を背負って」〉

高岡第一高等学校3年 鳥山 快莉



銅賞(中学生の部)

「前向きに」〈題材「笑わせえるすまん」〉

小矢部市立大谷中学校3年 林 莉玖



銅賞(中学生の部)

「想いを繋げて」〈題材「忍者ハットリくん」〉

小矢部市立大谷中学校3年 高澤 伶綺



銅賞(中学生の部)

「名作の数々を産んだ地」

〈題材「忍者ハットリくん、ドラえもん、笑うせえるすまん」〉

小矢部市立大谷中学校1年 岩永 琉世



銅賞(高校生の部)

「いただきまーす！」〈題材「雪道」〉

富山中部高等学校2年 中陣 凜子



銅賞(高校生の部)

「差し込む輝き」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山東高等学校1年 栗山 未遥



銅賞(高校生の部)

「海が呼んでいる」〈題材「ジョゼと虎と魚たち」〉

富山東高等学校1年 小俣 結梨



佳作(中学生の部)

「森の中のブランコ」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山市立大泉中学校3年 保田 梨華



佳作(中学生の部)

「日本のベニス川の情景」〈題材「君の臍臓をたべたい」〉

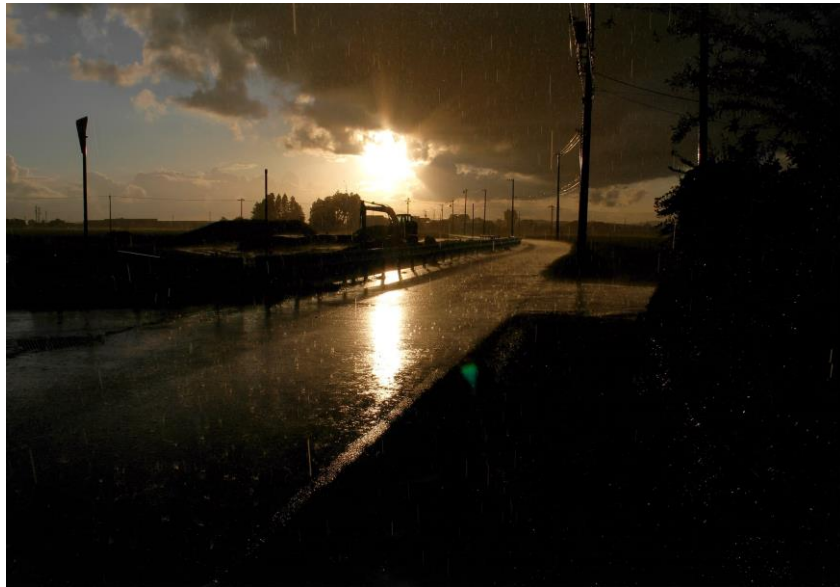
高岡市立牧野中学校1年 中山 愛唯



佳作(高校生の部)

「クールオレンジ」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山東高等学校1年 横山 将太郎



佳作(高校生の部)

「哀歎」〈題材「納棺夫日記」〉

富山南高等学校1年 稲岡 信乃